

<b>区分</b>	専門分野	<b>単位</b>	2単位
<b>科目名</b>	基礎看護学実習Ⅱ	<b>時間数</b>	90時間
<b>講師名</b>	専任教員	<b>履修学年</b>	1年次
<b>概要</b>	健康障害を持つ対象を理解し、看護援助の必要性を理解できる。		
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害を持つ対象と療養生活が理解できる。</li> <li>2. 対象に応じたコミュニケーションが図れる。</li> <li>3. 安全・安楽に考慮した日常生活援助を学ぶ。</li> <li>4. 入院から退院までの過程で医療者の連携及び看護者の役割が理解できる。</li> <li>5. 看護学生としての責任ある行動がとれ、自己の向上に努めることができる。</li> </ol>		
<b>授業内容（実習内容）</b>			
<p>実習場所：市立函館病院含む市内病院数か所</p> <p>実習方法： ・スケジュール 基礎看護学実習Ⅱオリエンテーションを受ける（2h） 病棟（72h）学内実習（16h）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者を選定してもらい、情報収集を行う。</li> <li>・指導者と行動を共にし、受け持ち患者を通し看護の実際を経験する。</li> <li>・入院生活を知るためのチェックポイントの調査を行う。</li> <li>・毎日の実習中に、実習グループ全体で臨床指導者より振り返りの時間を設けてもらう。</li> <li>・中間カンファレンスとして①リフレクションシートを用いて看護の場面を振り返り ②今後の援助の方向性について発表する。</li> <li>・最終カンファレンスとして①看護実践の評価 ②今回の実習の振り返りを行う。</li> <li>・実習終了後、学内でグループワークを行い、健康問題を持つ対象の理解し看護援助の必要性の理解や今後の課題の明確化を図る。</li> </ul> <p>※実習内容は別紙参照</p>			
<b>成績評価の方法</b>			
出席状況、実習目標の達成度、実習姿勢、記録物による総合評価			
<b>備考</b>			
<p>実習準備・オリエンテーションを実習開始前に行う。</p> <p>実習前に課題レポートを提出する。</p> <p>実習期間中は、自己の健康管理に十分留意する。</p>			